

ひきじだい

令和5（2023）年2月1日

如月（2月）号

大和市長
引地台小学校
HIKIJIDAI ELEMENTARY SCHOOL



「和をもって、明るく笑顔のある毎日を願って」

校長 箱崎 勝美

今年の冬は、10年に一度の寒波にみまわれ、降雪地帯の日本海側だけではなく、普段から雪が降らない太平洋側や九州南部でも雪が降り、全国的に最低気温を更新するぐらいの寒さです。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。そんな寒さの中でも、学校のシンボルツリーである「こぶしの木」の小さな花の芽が育っていました。暖かな春の訪れ【こぶしの花芽】を待ち望み、寒風の中をじっと耐えて、花を開くために準備をしているようです。また、子どもたちも、「楽しく集う、こぶしの芽、みんなのびのび、元気よく」と校歌にあるように、寒い冬に負けないで、明るく、楽しく過ごして欲しいものです。そして、「こぶしの木」は、春を告げる花として花開きますが、3月の卒業式、修了式が子どもたちの笑顔があふれるようになることを願っています。



昨年度は、緊急事態宣言が発出、まん延防止措置が適応されて、運動会、授業参観などの学校行事が中止になりましたが、今年度は、緊急事態宣言、まん延防止措置などの行動制限がなく、計画された教育活動は順調に行われました。来年度の教育活動については、平時に戻すか、または、見直しをして変えていくかを検討しながら、新型コロナウイルス感染予防を踏まえた教育活動の出口戦略を進めてまいります。一方で、新型コロナウイルス感染症のみならず、インフルエンザ感染症の拡大も懸念されています。保護者の皆様におかれましては、引き続き、感染予防にご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

さて、2月1日は大和市の市制記念日です。1959年（昭和34年）2月1日に大和市として誕生しました。今年で、64回目の誕生日を迎えることとなります。では、どうして大和という名前になったのか、ご存知でしょうか。大和市の名の由来は、明治時代に遡ります。各村長さんたちが、集まって会議を開き、一つの村になろうと話し合い、村名を決めることになりました。各村長さんたちが「自分のところの村名がいい。」と言って、譲らず、2年にわたって争ったそうです。そのため、ある人が、^{しょうとくたいし}聖徳太子（^{うまやどのおうじ}厩戸皇子）の「^わ十七条憲法」の中の「^{もつ}和を以て^{とうと}貴しとなす。」（「何事をやるにも、みんなが仲良くやり、いさかいを起こさないのが良いということ。」）から、「大和」が良いのではという意見を出し、各村長さんたちが「それがいい。」ということになり、「大和村」と決まり、現在の大和市誕生となったそうです。「大和の精神」は、教育活動にも言える大切なことだと感じました。

1月24日（火）「あいさつ運動」の児童朝会の中で、子どもたちの登校下校時に安全を見守ってくださる地域のボランティアさんのご紹介がありました。子どもたちの安全を守るためご尽力いただき、本当にありがとうございます。お陰さまで、子どもたちも、登下校時のあいさつの声が少しづつ大きくなってきました。また、PTA校外委員さんを始め、保護者の皆様もありがとうございます。和をもって、子どもたちが明るく笑顔のある毎日を過ごすことができるように教育活動を進めてまいります。どうぞ、よろしく願います。